

## PISA2009 における韓国の生徒の学力到達度が意味すること

(シンポジウム開催日:2010年12月10日)

講師: **李 起宗** [韓国 国民大学校 教授]

### 研究領域

専門は教育内容の国際比較研究。特にドイツとオーストリアを中心とするヨーロッパ諸国の政治教育・歴史教育を、国際関係と各国の政治・経済・社会の視点から分析している。

### 経歴

#### 所属学会

1982年 文学士, 教育学, 高麗大学校  
1984年 文学碩士, 教育測定・評価, 高麗大学校  
1992年 哲学博士, 計量・評価研究方法論, University of Illinois, Urbana-Champaign  
1995年～ 教授, 国民大学校  
2008～2010年 会長, 韓国調査研究学会  
2010～2010年 大学修学能力試験 諮問委員, 教育科学技術部  
2010～2010年 教員養成機関 評価委員, 教育科学技術部

### 著書

- ・李起宗(2006) 統計学 太英出版社
- ・李起宗(2005) 構造方程式模型 国民大学校出版部

## 要 約

義務教育終了時の15才にそれまでに学校で学んだ読解, 数学, 科学素養を測定する。PISAは一つの国家の教育力をよく表わす指標だ。

PISA2009の参加国全体では、韓国は読解2~4位, 数学3~6位, 科学4~7位を記録している。OECD会員加盟国の中では、読解1~2位, 数学1~2位, 科学2~4位に上位圏に位置している。今回のPISA2009で韓国に見られた著しい特徴は、学力向上の平準化現象だ。成績優秀な国の成績がさらに向上する可能性を、韓国が示したといえる。

このような結果が可能になった主要な理由は、国家水準学業成就度評価の導入, 私教育の代替手段である放課後学校政策の成功, 及び社会的影響力が非常に高い大学修学能力試験の実施の3点だと言える。

しかし、この成果が質的に優秀なことかどうか言うことは難しい。そんな判断が可能なのは成就点数の標準誤差が比較的大きく、上位5%の最上位学生の成就水準が他の主要な国に比べて相対的に低調だからだ。この部分に対する韓国の教育的な省察と代案が用意されなければならない。

## I. はじめに

どの国家でもより良い教育サービスを提供するために学校が今までにしてきた教育活動に関して多様な情報を収集して分析し、これに基づいて学校の教育活動を評価している。今日のグローバル化時代において学校が所期の目的を達成しているかどうかはより一層重要である。その理由は学校の力量がそのまま国家の競争力に直結するためだ。このような点で、2011年米国年頭教書発表でオバマ大統領は韓国の学校教師を国家建設者として何度も言及している。学校と国家競争力の関係がなければ最強国である米国の年頭教書で学校の議論はされなかっただろう(李ユキョン, 2011)。

国家競争力を強化して教育力量を極大化するという側面で学校教育の結果である学業成就を他の国と比較して教育的意味と含意を捜し出すのは重要だ。純粋に教育的堅持だけで見れば一つの国の学業成就を他の国と比較するのはもしかすると価値がないことかもしれない。物理的教育環境は互いに比較されるが、一つの国の教育過程はその国の歴史および文化が反映された固有なことであるから他の国と直接的に比較されることができない対象ではないためだ。それにもかかわらず、国家間学業成就を比較する理由は上述したように学校の力量がその国家の競争力を決定する重要な物差しであるからだ。

OECDは加盟国の教育力量を強化するために努力し、PISA(Programme for International Student Assessment)研究を持続的にしてきた。PISAは大部分のOECD加盟国で義務教育が終了する15才を評価対象にしている。PISAは読解、数学、科学素養を諮り、学校教育過程に基づいた知識よりは実生活に必要な能力、すなわち知識を状況と目的に合わせ活用できる基本的素養に注目する。したがってPISAの関心は‘学校で何を習うのか’よりは‘学校で何を習うべきか’に注目する(キム・ギョンヒ他, 2011a)。

PISAは周期別に主領域を別に設定している。PISA 2000では読解、PISA 2003では数学、PISA 2006では科学であり、PISA 2009

ではまた読解が主領域だった。したがってPISAは3年を周期で研究が進行されるが、主領域に対する評価は9年ぶりであるため、主領域を中心に見れば9年周期の研究だと言える。

## II. PISA 2009 標本および検査施行

PISAは参加国で選ばれた標本を対象に評価情報を収集する調査研究である。

したがって標本が妥当で的確に抽出されるためにOECD/PISA本部で定めた標準化された標本抽出方法を遵守しなければならない。標本抽出は先に標本学校を選定して標本になったそれぞれの学校で対象学生を標本する過程を経る。標本に選ばれる学生は満15才でなければならない。

韓国の場合、学校級(中学校/高等学校)、学校系列(一般系/専門系)、都市化程度(大都市/中小都市/町村地域)、学校類型(男子学校/女学校/男女共学)を考慮して標本学校を選定した後、標本学校で学生を無作為抽出した。この手順を踏んで標本となった162学校のうち、満15才学生が2人以下の5つの中学校は標本対象から除外され、残った157校で5,123人の学生が無作為抽出された。この内中学生は343人で、高校生は4,780人である。

PISA2009は2009年5月18日から5月29日まで中学校20校、高等学校137校で施行された。標本学生5,123人の中で実際検査に応じた学生は4,990人で試験欠席学生が133人だった。採点は読解16人、数学8人、科学8人の採点委員が担当し、採点委員は研修を通じて採点基準を熟知して採点練習をすることで採点基準を一貫して適用することができた。このように採点された結果は資料検証を経た後平均500、標準偏差100の標準点数に変換された(キム・ギョンヒ他, 2011a)。

## III. PISA2009 結果

PISAはOECD加盟国中心だが、OECD非加盟国のPISA参加も持続的に増加している。PISA 2000に32ヶ国、PISA 2003に41ヶ国、PISA 2006に57ヶ国、PISA 2009に65ヶ国

が参加している。このように主要国が PISA に参加しているため PISA は全世界的研究であるといえる。

韓国は PISA 2000 を合わせて結果を算出した PISA PLUS では、読解 6 位・数学 3 位・科学 1 位を占め、PISA 2003 では、読解 2 位・数学 3 位・科学 4 位を占め、PISA 2006 では、読解 1 位・数学 1～4 位・科学 7～13 位を占めたことがある。そして PISA 2009 では下 Table 1 で見るように 65 参加国の中で、読解

2～4 位・数学 3～6 位・科学 4～7 位を記録している。OECD 加盟国の中では、読解 1～2 位・数学 1～2 位・科学 2～4 位に上位圏に位置している。

下の Table 2 は読解領域での上位 10ヶ国の学業成就分布を表わしたものである。本来は全体参加国が含まれた表なのだが、議論のため上位 10ヶ国の結果だけを提示した。OECD および全体参加国順位が表れ、百分位別成績分布が分かる。括弧の中は標準誤差。


Table 1 PISA 2009 での韓国

国	読解			数学			科学		
	平均	順位		平均	順位		平均	順位	
		OECD	全体		OECD	全体		OECD	全体
韓国	539 (3.5)	1～2	2～4	546 (4.0)	1～2	3～6	538 (3.4)	2～4	4～7
OECD	493(0.5)			496(0.5)			501(0.5)		

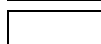
( )内は標準誤差

Table 2 読解領域での上位 10ヶ国学業成就分布

参加国	読解素養			百分位					
	平均点数 (標準誤差)	順位		5%	10%	25%	75%	90%	95%
		OECD 順位	全体 順位	点数 (標準誤差)	点数 (標準誤差)	点数 (標準誤差)	点数 (標準誤差)	点数 (標準誤差)	点数 (標準誤差)
上海-中国 <sup>㉞</sup>	556(2.4)	-	1	417(5.2)	450(4.8)	504(3.5)	613(2.8)	654(2.7)	679(3.3)
韓国	539(3.5)	1～2	2～4	400(7.6)	435(4.2)	490(4.1)	595(3.4)	635(3.0)	658(3.8)
フィンランド	536(2.3)	1～2	2～4	382(3.4)	419(3.6)	481(2.7)	597(2.2)	642(2.6)	666(2.6)
香港-中国	533(2.1)	-	3～4	380(5.5)	418(4.5)	482(3.0)	592(2.5)	634(2.9)	659(3.1)
シンガポール <sup>㉞</sup>	52(1.1)	-	5～6	357(3.4)	394(3.1)	460(2.0)	297(2.1)	648(2.8)	676(2.7)
カナダ	524(1.5)	3～4	5～7	368(2.9)	406(2.7)	464(1.9)	588(1.7)	637(1.9)	664(2.1)
ニュージーランド	521(2.4)	3～5	6～9	344(5.8)	383(4.5)	452(3.1)	595(2.8)	649(2.7)	678(3.7)
日本	520(3.5)	3～6	5～9	339(9.8)	386(7.1)	459(4.8)	590(3.0)	639(3.6)	667(4.6)
オーストラリア	515(2.3)	5～7	8～10	343(3.8)	384(3.1)	450(2.9)	584(2.7)	638(3.2)	668(3.9)
オランダ	508(5.1)	5～13	8～16	365(4.7)	390(5.0)	442(6.1)	575(5.4)	625(4.6)	650(4.0)
OECD 国別の平均	493(0.5)			332(1.0)	369(0.8)	432(0.7)	560(0.5)	610(0.6)	637(0.7)

 OECD 平均より統計的に留意する高さ

\* ㉞ : PISA 2009 から PISA 研究に初めて参加

 OECD 平均より統計的に留意した差はない

\* OECD 国別平均は OECD 34ヶ国それぞれに対する平均である

次に Figure 1 は韓国の読解領域で学業成就変化傾向を表わしたものだ。韓国は PISA 2006 まで持続的に増加し PISA 2009 で若干減少している。しかし OECD 平均よりはいつも上位に位置している。

下の Table 3 は数学領域での上位 10ヶ国学業成就分布を表わしたものだ。本来は全体参加国が含まれた表なのだが、議論のために上位 10ヶ国の結果だけのみ提示をした。

次に Figure 2 は韓国の数学領域で学業成就変化傾向を表わしたものだ。韓国は PISA 2006 まで増加し PISA 2009 では 2006 の傾向をそのまま継続している。そして OECD 平均よりはいつも上位に位置している。

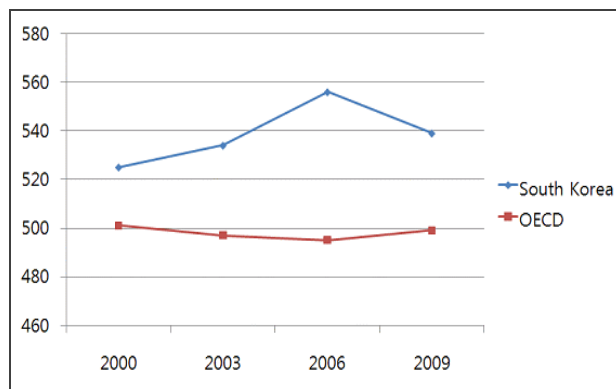


Figure 1 読解領域成就変化推移

